

# 平成20年度 病害虫発生予察技術資料 第3号

平成20年9月24日  
島根県病害虫防除所

## イネ縞葉枯病が県内各地で発生。 発病状況の把握と早期の秋起こしを！

近年皆無であったイネ縞葉枯病の突発的な発生については、8月7日付け発生予察技術資料第1号で現況をお知らせしたところですが、後期感染（幼穂形成期頃の感染）の病徴が明瞭となった出穂後に再度調査を行った結果、発生圃場率は16.9%となり、県内のさらに多くの地域で発生していることが明らかになりました（表1）。

また、無病徴でほとんど被害株が確認されなかったハナエチゼンにおいても、刈り株から生じた再生稲では高率に発病している圃場が多数認められました（写真、図1）。

この結果は、立毛状態では発病がみられなかった圃場や地域においても、健全株の他に感染時期が遅く発病に至らなかった潜伏感染株があることを示唆するものです。

つきましては、立毛時のみならず、刈り取り後に生じる再生稲の観察により、感染の実態について改めて確認をお願いします。また、発病した再生稲を介してさらにヒメトビウソカノ保毒虫率が高まることが懸念されますので、秋起こしによる埋込みの早期実施をお願いします。

表1 イネ縞葉枯病の発生状況

	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
県東部	220	11.8	3.0 (79.2)
県西部	135	25.2	4.8 (36.0)
計・平均	355	16.9	3.7

注) 調査品種：一部を除きコシヒカリ、  
調査時期：8月27日～9月4日  
( ) 内は地点別の最大値

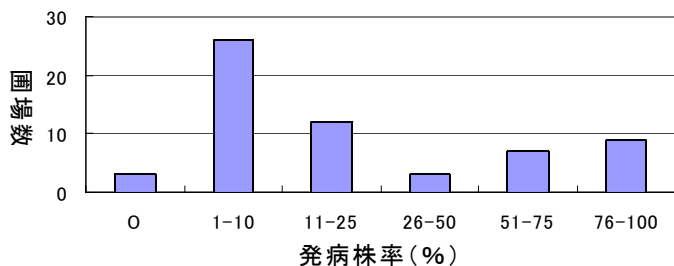


写真 再生稲の発病株

図1 再生稲におけるイネ縞葉枯病の発生状況

注) 調査品種：ハナエチゼン、n=60  
調査時期：9月17～19日